

# GLOBAL VOYAGE

[グローバル ヴォヤージュ]

PEACE BOAT

\*2018\*

Summer

憧れのエジプトへ

第二特集

南極大陸に最も近い港町

ウシュアイア [アルゼンチン]

[発行](株)ジャパングレイス





太古の謎と神秘を今に伝える  
魅惑のエジプトへ



Port Said & Cairo

第101回、第102回ピースボート地球一周の船旅で寄港予定のエジプト。ピースボートクルーズがエジプトを訪れるのは、実に6年ぶりのこと。数千年の歴史を伝えるギザの三大ピラミッドやスフィンクスなど「一生に一度は見てみたい」と申込者からの人気も高い寄港地のひとつだ。古代ロマンが凝縮され、世界中の旅人を魅了してやまない特別なひとときへ——。水先案内人・吉岡淳さんにもお話を伺い、エジプトの魅力に迫った。

## CONTENTS

### 特集

太古の謎と神秘を今に伝える

魅惑のエジプトへ…………… P3

エジプトの歴史…………… P4

ポートサイド&カイロ…………… P6

エジプトのグルメ&グッズ…………… P8

シップリンが教える船の雑学…………… P9

寄港地に行く

世界遺産の街

グアテマラ・アンティグア…………… P10

### 第二特集

南極大陸に最も近い港町

アルゼンチン・ウシュアイア…………… P12

PEACE BOAT NEWS…………… P16

PEACE BOAT TOPICS

石川県「白山米」…………… P18



*Ocean Dream*

エジプト・ポートサイド港停泊中のオーシャンドリーム号



表紙の写真

エジプトといえばスフィンクス。第101回、102回クルーズで寄港予定。



ギザの三大ピラミッドは、古代エジプト王国  
のファラオの墓陵であり、被葬者はクフ王、  
カフラー王、メンカウラー王とされる。

# ナイル川の恩恵を受けた謎多きエジプト文化

エジプトの世界遺産といえど、だれもが思い浮かべるのが「ピラミッド」だろう。いまだ、その建設方法や目的は謎に包まれたままで、多くの仮説は存在するものの、決定的な証拠は見つかっていない不思議な建造物だ。特に有名なのは、ギザ高原に建つクフ王、カフラー王、メンカウラー王のピラミッドの3つ。これらのそばには、かの有名なスフィンクスの石造も並ぶ。三大ピラミッドの中で最も大きいのはクフ王のもので、高さ約147メートル、底辺は約230メートルで、平均2.5トンの石が約280万個も使われているという圧倒的なスケールには思わず息を呑む。これら以外にも、エジプトでは多数のピラミッドが世界遺産に登録されていて、太古の謎と神秘を今に伝えている。さて、これらエジプト文化に大きく関わるのが、首都カイロに近く、エジプト東部を流れる「ナイル川」だ。地中海へと繋がって

いるアフリカ最長級の河川で、特にカイロ付近からは複数の支流に分かれ、ナイルデルタという南北160キロ、東西240キロの巨大な三角州が形成されている。ナイル川のことを語る上で外せないのが、古来より定期的に起きていた川の氾濫についてだ。この氾濫によって、周辺の耕地全体が一度冠水するものの、結果として水が引いた際に上流から運ばれてきた沃土が堆積し、豊かさを毎年のように生み出していた。古代ギリシアの歴史家ヘロドトスが残した「エジプトはナイルの賜物」という言葉が示すように、高度なエジプト文明は、ナイル川の恩恵を受けた肥沃な大地によって形成されていた。南北に流れているこの川に根付く独特な世界観も興味深い。それは、太陽が昇る東岸は「生者の世界」とされ、太陽が沈む西岸の砂漠地帯は「死者の世界」とされているというものだ。この考え方は建造物

## History of EGYPT




1:横たわるラムセス二世の像は超巨大。2:エジプト南部のアブ・シンベル神殿。建造主は同じくラムセス二世。3:芸術性の高い古代エジプトの壁画。  
4:史上初ともいわれるサッカラのピラミッド。5:いまだ読み方は謎に包まれたヒエログリフ(象形文字)。6:二重神殿が珍しいコム・オンボ神殿。

にも反映され、カルナック神殿やルクソール神殿などの神殿群は東岸に建設されている一方で、黄金のマスクで有名なツタンカーメン王の墓やハトシエプスト女王葬祭殿などの墓地遺跡群は、西岸に位置している。このようなことを知った上で、自身が訪れる観光地がナイル川のどちらに位置するかを気にしながら観光するのも、この土地ならではの旅の楽しみ方かもしれない。

そして、これら神秘に包まれたエジプト文化に触れるには、エジプト考古学博物館がおすすめ。館内には25万点以上の文化遺物が収められ、ツタンカーメンの黄金のマスクをはじめとする秘宝や出土品、棺など、どれも見ごたえがある。特に見る価値があるのは、ヒッタイトの戦いなどで有名なラムセス2世のミイラ。ほかにも、ヒエログリフと呼ばれる文字が発明され、さまざまな記録が残されたパピルスも見られるなど、当時の生活の様子を肌で感じ取ることができるはずだ。近い将来、第二の考古学博物館にあたる「大エジプト博物館(グランドエジプトミュージアム)」

〈世界遺産に詳しい〉  
水先案内人にご協力いただきました。

水先案内人  
吉岡 淳さん



日本ユネスコ協会連盟の元事務局長として、30年に渡り世界遺産の保護や広報活動に携わる。また、地域でできる地球に優しいライフスタイルを提案するオーガニック料理の店「カフェスロー」を2001年に設立し新しい文化を発信し続けている。著書に「しあわせcafeのレシピ〜カフェスローものがたり」(自然食通信社)など多数。



もオープン予定。誰も答えを知らない、神秘に包まれたエジプトは、今なお世界中の人々を魅了し続けている。



# 港町ポートサイドから「千の塔の都」カイロへ



海の玄関口ポートサイドから、首都カイロを巡る旅。エジプトの定番といえば、ピラミッドやスフィンクスを思い浮かべるかもしれないが、それ以外の魅力もいっぱい。



世界の船が行き交う  
スエズ運河北端の港湾都市

1:大小さまざまな船で港は賑わう。2:下船するなり露店で買い物も。3:何のお店かわからないこともしばしば。4:人口増加に伴い自動車の数も激増中。



地球一周クルーズのハイライトのひとつ「スエズ運河」を抜けると現れるのがエジプトの港町ポートサイド。昔から綿花や米などの重要な輸出港として栄え、いまでもスエズ運河を通る船の燃料供給地として、世界中の多くの船が集う場所だ。

港には、ところ狭しと露店が並び、着岸するなり商人たちが色とりどりの土産物を持って近寄ってくるのはポートサイド名物。お目当ての土産物を早速手に入れられるチャンスだけにアラブの商人たちとのかけひきにチャレンジしてみるのもひとつだ。

港を出ると街はすぐ目の前。ポートサイド全体はこじんまりとした印象だが、時間によつてはコーランが本船まで聞こえてくるなど、エジプトの息吹を感じるには最適な街だ。

古い建物が残っていることも多く、各階にアーチ型の窓と大きなバルコニーがあるのが目印。ほかにアラビア語で書かれたお店の看板などすべてが新鮮で、遠い異国の地へ足を踏み入れたことをすぐに実感できるだろう。スエズ運河の対岸には、ポート・フアードという街があり、多数のフェ



リーが行き交う様子がうかがえる。特に船着き場近くの「ポート・フアード・グランド・ガーマ」というモスクにそびえる2本の立派なミナレット（尖塔）は有名。エジプトの玄関口・ポートサイドでのたくさんの素敵な出会いや発見に、次なる街カイロへの期待も膨らむはずだ。



イスラム世界の  
学術・文化・経済の中心都市

5:アズバル・モスク横には世界最古の大学も。6:エジプト考古学博物館は必見。7:カイロ市街地から見るピラミッド 8:カイロタワーは街のシンボル。



車窓で楽しむことになるカイロの街は、2007年に世界遺産に登録されたカイロ東南部の「カイロ歴史地区」を中心に見どころは充分。この地区には、シタデルと呼ばれる要塞があるイスラム地区（旧市街）や、キリスト教の流れを汲んだ教会などが多く残るオールドカイロと呼ばれる地区が含まれる。イスラム文化による歴史的建造物も数多く残り、600を超えるモスクや、1000以上のミナレットを擁することから「千の塔の都」という異名も持つ街だ。

ほかにも、一度は通りかかるのが、カイロで一番大きな広場である「タハリール広場」。2011年アラブの春の革命の舞台となった場所で、新生エジプトを象徴する場所だ。船から感じたナイル川の静けさとは反対に、エジプトの今を映し出す街の喧噪が印象的だろう。ほかにも運がよければ、ナイル川の中州にある高さ187mを誇る街のシンボル「カイロタワー」が見られることも。

クライマックスは、定番のギザの三大ピラミッド。ラクタを引いたアラブの商人らの客引きの声にはもう慣れた頃



だろうか。ここでは3つのピラミッドを一枚に収めた記念撮影もお忘れなく。最後に、この国を楽しむ最大のポイント、イスラム教に対しての敬意を払うこと。肌を露出した服装は控え、原則禁止されている飲酒をおおびらに行わないことなどに気をつければ、彼らとの心の距離もぐっと近づくはずだ。



シップリンが教える

# 船の雑学



Break Time



船の歴史は、地球上に人類が誕生したときからはじまったとされます。船の動力も櫂から帆へ、そして19世紀には蒸気機関が使用されるように。船体の材料も木から鉄、鋼鉄と変わり、今日にいたります。日々進化を遂げる船の雑学を、ピースポートオリジナルキャラクター・船の妖精シップリンに教えてもらいました。

Trivia.1

## 左舷側をポートサイドと呼ぶ？

かつて舵を取るための板は船尾の右舷側にあり、舵のない左舷側を港につけて人や積み荷の出し入れ口に。その名残で左舷側はポートサイドと呼ばれています。

Trivia.2

## 「面舵いっぱい」の由来は？

方角を十二支で示していた頃、船を右に回転させたい場合に卯の舵(うのかじ)といていたのが転じて面舵(おもかじ)と呼ばれるようになったとされます。

Trivia.3

## 左右のライトの色が違う？

進行方向がほかの船からわかるようにするために、左舷は赤色、右舷は緑色の航行灯がつくように定められています。これらは飛行機にも適用されています。

Trivia.4

## 外国船は女性の名前が多い？

英語圏では船は“She”と呼ばれ、女性名詞として扱われます。頻繁にペンキを塗り替える様子を化粧に例えたなど、諸説あるようです。

Trivia.5

## 船底の色が赤いのはなぜ？

カキやフジツボ、アオノリといった動植物の船底への付着を防ぐための赤い塗料成分に由来します。水生生物が付着すると水流の抵抗も増加してしまうのです。

Trivia.6

## 船は急には止まらない？

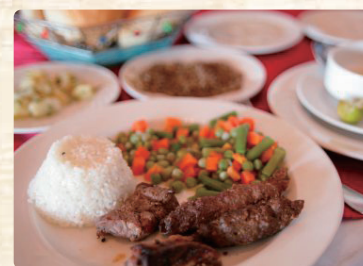
船にはブレーキがなく、後進をかけて速度を調整。それゆえ船の操縦で一番難しいのは、着岸時。タグボートの力を借りて船を押したり引いたりして着岸させます。



EGYPT

## Food & Goods

街歩きを彩る  
エジプト料理と  
充実のお土産



エジプト料理は意外にも口に合うと乗船者にも人気。



エジプト料理の代表コシャリ。屋台で安く気軽に食べられる。



キャベツを巻いた家庭料理マフシー。



カレーも美味。豊富なメニューについて迷う。



ボリュームには大満足。シェアして楽しむのもよい。



色とりどりの野菜が食欲をそそるカッテージチーズのピザ。



現地のパスタは絶品。エジプト料理はバラエティーの豊かさが特徴で、いい匂いが街にも漂う。



お土産から独特のエジプト文化を感じられる。



エジプトのネックレス、カルトゥーシュは女性に人気。



アラブ音楽には欠かせない弦楽器ウード。色や柄も豊富だ。



さまざまな香りが楽しめる香水。装飾の緻密さは見事。



家に飾っておきたくなるかわいらしい小物も多数。



ピラミッドのお土産は定番だ。



ツタンカーメングッズは種類も豊富。



コップは船内でも使えて便利だ。



露店ではきらびやかな金属細工をよく目にする。

カイロ市内の土産物屋には、ところ狭しとエジプトならではの大小さまざまな土産が並ぶ。金属細工や民族衣装など、見るだけでも充分享しめる。目当てのものが見つかったら、ぜひアラブの商人相手に値段交渉を。





# 寄港地 を行く

第102回 クルーズ  
＜Preview＞



グアテマラ共和国



## 世界遺産の街

## グアテマラ・アンティグア

### スペイン植民地時代の面影が残るカラフルな古都

石畳の道が碁盤の目状に走り、おしゃれな土産物屋や喫茶店が並ぶカラフルな街アンティグア。1979年に世界遺産に登録され、街のいたるところでスペイン植民地時代の面影を感じられる。船が着くプエルトケツアル港からは車で二時間半ほど。ゆるやかな道を行く車窓からは、サトウキビ畑やコーヒー畑、そして立派にそびえる火山を望むことができる。アンティグアは、3つの火山に囲まれた高原にあり、かつてはグアテマラの首都として栄えた場所。しかし1773年の大地震によって大きな被害を受け、首都は現在のグアテマ

ラシティにうつることになった。この大地震で人々は街の再建を諦め、結果として生まれたのが、当時の街並みをそのままに残す「世界遺産・アンティグア」なのだ。

そんな街を見守るようにそびえるのが、富士山のような美しい稜線が特徴の「アグア火山」。高さは3760メートルで、3776メートルの高さを誇る富士山との差はわずか16メートル。しかし実際に現地で見てみると、富士山ほど高さを感じられない。その理由は、アンティグアの街が1500メートルという高さに位置するためだ。

メルセー教会と並んで有名な「サンフランシスコ教会」。



かつての大地震によって崩壊した教会などは、今も街のいたるところに残り、観光名所としてにぎわう。そのなかでも有名なのが、時計台エルアルコをくぐるとすぐに姿を現す「メルセー教会」だ。1751年に建造されるも、大地震により倒壊。その後1855年に再建され淡く黄色い色調と壮麗な装飾が見事だ。このほかにも、入場料を払って中に入ることができる史跡もあり、まるで過去にタイムスリップしたかのような不思議な感覚に陥る街歩きが楽しい街だ。

高い建物も少なく、どこを切り取っても絵になるアンティグア。散策していると、さまざまな民芸品を数物に広げマヤの民族衣装をまとった商人たちにもよく出会う。そこでひと際目を引くのが、カラフルな織物の数々。家族や友人へのお土産にもおすすめた。また明るく気さくな彼らとの交流もきつと楽しいはず。その一方で知っておきたいのは、この街はいまだ貧富の差が激しいという現状。商人のほとんどが郊外から市街地へ働きに出て、貧しい生活を強いられているとい

う人が多い。彼らの暮らしにも思いを馳せ、交流を楽しんでもらいたい。さて街歩きの高ライトは、街を少し離れた「十字架の丘」と呼ばれる高台へ。街の中心部からは歩くこと約30分。ここからはアンティグアの街並みが一望できる。そして正面に堂々とそびえるのは、この街と長年の歴史を共に刻んできたアグア火山。絵はがきのような美しい風景の連続は、乗船者の期待度を越えることしばしば。あまり知られていない世界遺産だけに、今うちに訪れておきたい場所のひとつだ。



1:アグア火山と街並みを一望できる「十字架の丘」。2:大地震で崩れたままの建物も多い。3:カラフルな土産はすべて手作り。4:伝統的な民族衣装を着た子どもたちの笑顔が印象的。

## Antigua Guatemala Food & Goods

丁寧に作られた民芸品の数々に、古くから伝わるヘルシーな食事。どれも地元の人々のぬくもりが伝わるものばかりだ。



ローカル料理にもぜひ挑戦を。



手作りのお土産が多い。



すり潰したトウモロコシから作るトルティーヤが主食。



コーヒーは世界的に有名。



Antigua

世界遺産





港に入るなり目の前に広がるのは、雄大なマルティアル山脈。その山の裾野に広がるのが、ウシュアイアの街だ。多くの探検家はこの街からビーグル水道を通り、南極大陸を目指した。ウシュアイアのあるフエゴ島は、南米大陸の南端にひしめき合う複数の島々の中のひとつ。これらの諸島は“火の土地”を意味する「ティエラ・デル・フエゴ」と呼ばれ、かつて先住民たちが暖をとるために島のあちこちで焚いていた火に由来する。そんなフエゴ島だが、最果ての孤島ゆえに20世紀前半には凶悪犯の流刑地となっていた側面も持つ。

飛行機でなく、船で行くからいい。日本から遠く離れた世界の最果てへ、時間をかけて訪れた分、この地で出会うことになるさまざまな感動は何倍にも感じられるはずだ。

## 南極大陸に最も近い港町 ウシュアイア (アルゼンチン)

古くより南極探検の拠点として栄えてきた街・ウシュアイア。南極大陸への距離はおよそ1000キロ。「世界の最果て」を求めて今なお多くの観光客が南米大陸最南端の地を訪れている。



ピースボートクルーズがこの街を訪れるのは夏のシーズン。南極大陸周辺の冬の厳しい環境を乗り越え、緑が生い茂ったたくましい景色が本船を迎えてくれる。港にはたくさん遊覧船や探検船が浮かび、その多くがビーグル水道を通じて世界中の観光客を南極大陸へ連れて行くもの。南極海沿岸に生息するペンギンの観測地としても有名で、ツアーによつてはそれらを見られることもある。海からは強い風が吹き、ウシュアイア西方には風の影響で斜めに傾いたままの木があるほど。この地を踏んだ数々の探検家が体験したであろう大自然の迫力は今も変わらない。

南極を感じる  
Antarctic

街中を散策  
Walking

ウシュアイアの港から街へは歩いてすぐ。メインストリートのサンマルティン通りには、とんがり屋根が特徴のロッジのようなかわいらしい建物が並ぶ。レストランやカフェ、土産物屋、アウトドアショップなどさまざまな種類のお店が揃い、ショッピングには最適。治安もよいので安心して街歩きを楽しめる。そして街の歴史に触れられる「世界の果て博物館」と「元監獄」の2つの博物館も必見。規模も大きくないので、短時間での観光が可能だ。特に「世界の果て博物館」は厳しい寒さの中で生き抜いてきた先住民たち

1: 航海中には海に氷が浮かんでいるのを見ることも。2: この地に生息するペンギンも。3: 特に人気のパタゴニアフィヨルド遊覧。



## 南極大陸に最近の港町ウシュアイア

4: 観光列車からはのどかな光景の連続。5: 広大な国立公園で大自然を満喫。6: トレッキングはシニアの方にも人気。



7: 記念撮影に人気の世界の最果て看板。8: 色鮮やかな「世界の最果て号」。9: かつての監獄を利用した博物館。



10: ペンギングッズは大人気。11: 割れ物のお土産も船なら安心。12: Tシャツには各言語で「世界の最果て」の文字が。



13: 食が充実しているのもこの街の自慢。14: 現地のラム肉はくせもなく美味。15: カニ料理は現地に詳しいスタッフもお墨付き。

大自然を満喫するなら観光列車「世界の果て号」に乗ってティエラ・デル・フエゴ国立公園へ。この列車はもともと囚人たちを移送するためのものだったというから驚きだ。車窓からは、過酷な環境を耐え抜いた亜南極地域特有の植物たちを望める。広大な国立公園には森や湖が広がり、体力に自信のある人は、ハイキングやトレッキングがおすすめ。湿地帯を訪れると、ビーバーの作ったビーバーダムが見られることも。ほかにもエンセナーダ湾にぼつりと佇む「世界の果て郵便局」を訪れてみるなど、雄大な自然の中で、どう過ごすかは人それぞれだ。

自然を満喫  
Nature

グルメを堪能  
Gourmet

ウシュアイで必ず食べておきたいのが、アルゼンチンの伝統的な焼肉料理「アサード」だ。何時間もかけてじっくりと炙り焼きされた肉は、無駄な油も落ちて絶品。またカニをはじめとした新鮮なシーフードも有名で、レストランの店先にいけすがあることもしばしば。日本ではなかなか見かけることのないような巨大ガニも堪能できるので、ぜひ複数人で訪れてチャレンジを。そしてこれらの食事に華を添えるのは、アルゼンチンワイン。街中でもおいしいワインを比較的安価に入手でき、重く割れやすい荷物も安心して運べる船旅のお土産にはぴったりだ。





# 船上百景 [ブリッジ]



実際に本物の舵輪に触れられることも。目の前の大海原に思わず老若男女問わず参加者は大興奮。

## 世界の海を見つめ続けた操舵室

船で旅をすれば、一度は「見てみたい」と思うのがブリッジ（操舵室）。ここを特別に見学できる「ブリッジツアー」は参加者に大人気。普段はもちろん一般の乗船者は立ち入り禁止の場所。クルー（乗組員）でもここに入ることができるのは限られているからとても貴重な機会だ。ブリッジ内は精密機器も多く、入れる人数も限られているためグループに分かれてツアーは催行される。

長年勤めた仕事を引退して乗船したという60代の男性に聞くと「全面ガラス張りですし、左右に大きくせり出した作りになっているので、視界いっぱい広がる大海原が気持ちがいいですね。つい少年のようにしゃいでしまいました。船長としての人生も歩んでみたかったですね」

世界の海を見つめ続けた操舵室からは、ほかでは味わえない格別な景色がずっと広がっているはずだ。



これら精密機器が安全な船旅を支えている。



本船事務局長の説明にみな興味津々。



寒さ厳しい2月上旬、横浜の港から27歳の若者が出帆した。国の代表としてフランス皇帝と直接交渉をするために――時は幕末、青年の名は池田長発。  
34名からなる遣欧使節団の団長で、約150年前に撮影された有名な「スフィンクスと侍」という写真に写る27人の侍たちの中の一人です。横浜港を閉鎖するという交渉は失敗に終わりますが、最後は自分の考えを180度変え、日本が開国へと舵を切る約定を勝手に結んで帰国します。

日本を離れ知らない世界を知る。見るもの触れるものすべてが新鮮で大きな衝撃を受ける。そんな実体験が彼ら若者の考え方を根底から変えていったでしょう。やはりいつの時代も旅には人を大きく変えるパワーがあるんですね。

また、彼らの航路は、シンガポールやコロンボを経由する現代のピースボートクルーズと同ルートでしたが、スエズ運河はまだ工事中だったのでカイロまでは汽車を使っています。エジプトを訪れた際は、そんな150年前の若者たちに思いを馳せながら、彼らが「三角山」や「首塚」と呼んだピラミッドやスフィンクスを眺めてみるのも乙ですね。（N.I）



## パラオ大統領 訪船

第97回「アジア・グランドクルーズ」で訪れたパラオにて、トミ・レメンゲサウ大統領が来船。入国に際し、全乗船者が環境保護に関する誓約書「パラオ・ブレッジ」へ署名し、パラオの未来を担う子どもたちに対し、環境へ配慮ある行動をすることを約束した。



大統領と船長は船内でしっかり握手。このあと船内見学も楽しんだ。

人口2万人に満たないパラオには、毎年16万人を超える観光客が訪れている。特に近年、観光客による不法投棄や汚染などにより、珊瑚礁をはじめとした自然環境への悪影響が深刻な問題となっている。この状況を受け、2017年12月からパラオは入国者に対して環境保護に関する誓約「パラオ・ブレッジ」への署名を義務化した。この署名には「足運びは慎重に、行動には思いやりを、探索には配慮を忘れません」「そして「自然に消える以外の痕跡を残しません」という文言が含まれている。

今回、署名が義務化されてから初めての客船の寄港となることから、レメンゲサウ大統領立ち会いのもと、ピースボートは船上で署名をした。さらに今クルーズには、気候変動の影響を最前線で見たりしているパラオの若者4名が「海洋と気候変動ユースアンバサダー！」



大統領立ち会いのもと、デッキでピースボートとして「パラオ・ブレッジ」に署名。環境へ配慮ある行動をすることを約束した。



環境保護に対する志は同じであることをピースボートも再確認。

メンバーとしての横濱からパラオまで乗船。船内では、観光客がパラオの環境にどれくらい負担をかけているかなどを伝える講義や、デイスカッションの場が設けられた。メンバーの一人であるニッキー・ウエハラさんは、「パラオだけでは、この活動はできません。ピースボートと、第97回クルーズの乗船者のみなさんの応援を受けて、数え切れない次世代の若者たちと、かけがえないパラオの自然のすばらしさを共有できることを心から願ってやみません」と訴えた。

これらピースボートと一連の活動に対し、レメンゲサウ大統領は「まずは自国の若者たちの帰国を喜び、規模は小さくとも大きな意味のあるパラオ・ブレッジのような取り組みには、国際的な応援が重要です」と敬意を表し、国際的な協力の必要性を強調した。

乗船者も「若い方々の声も含めて、こんなに素晴らしい取り組みが行われているなんて感動しました。パラオ誓約に喜んで署名をします」と話すなど、両者にとって有意義な日々が過ごせたようだ。



## 東ティモール前首相 訪船



紛争解決や平和構築について話を伺え、乗船者にとっても貴重な機会となった。

ピースボートにとって18年ぶりの寄港となった東ティモール。久々の寄港にあたり、東ティモール元大統領ジョセ・ラモス・ホルタ氏がオーシャンドリーム号に來船した。

ジョセ・ラモス・ホルタ氏は、東ティモールにて第2代首相、第2代大統領を務めた人物。インドネシアからの独立に向け、東ティモール独立運動の平和外交を指揮し、「東ティモールにおける紛争の正当で平和的な解決への尽力」が評価され、1996年にはノーベル平和賞を受賞している。

船内では、独立するまでの道のりを振り返り、「独立した今でも、両国はよい国交を築けています。



船内のホールには多くの人が集まり、講演が終わると大きな拍手に包まれた。

25年間続いた独立戦争の間、若者たちにはインドネシアを批判せず、尊敬の念を持つように教えてきました。その結果、このような関係が築けたのだと思います」と語った。また独立にあたって国際法廷を開かなかったことも理由のひとつに挙げ、「わたしたちは、インドネシアとの和解を求めています。それが今に繋がっています」と話した。

2002年の独立時、政治や経済、医療面など、壊滅状態だったこの国も、今では現地を訪れた乗船者たちも治安のよさに驚くほど。ピースボートは、独立前から支援物資を船で届け、今でも、水先案内人の伊藤剛氏が設立に携わったコミュニティラジオ局訪問のオブシヨナルツアーを催行するなど、現地との交流を絶やすことなく続けている。

## ノーベル平和賞メダルを携えて航海中

2017年12月、同年7月に成立した核兵器禁止条約に対する貢献が評価され、ピースボートが国際運営グループの一員として活動を牽引してきた「核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）」がノーベル平和賞を受賞した。

その受賞を受け、第98回地球一周クルーズでは、ノーベル平和賞の賞状とメダル（公式レプリカ）を携え、2018年5月8日に横浜港を出航した。

ピースボートでは、世界各地で被爆者とともに核廃絶を訴える



横浜出港前におりづるプロジェクトのメンバーで集合写真。平和の種を蒔きつづけるピースボートの活動はこれからも続く。



公式レプリカとはいえ、メダルはずっしりと重い。

「ヒバクシャ地球一周証言の航海（通称…おりづるプロジェクト）」を続けてきており、今クルーズでも被爆者2名と被爆2世1名が参加し、世界各地で被爆証言会を行っている。航海中、船内のデッキでは賞状とメダルを持つての記念撮影会が行われた。ICANの国際運営委員を務めるピースボートの川崎哲は、「ノーベル平和賞のメダルや賞状にふれることを通して、『自分もなにかしなければ』という思いを感じてもらえたら何よりです」とコメント。地球一周の船旅にメダルを携え、ピースボートは平和の鐘を鳴らし続ける。







# 白山の美味しいお米を、 どうぞ船の上で お召し上がりください。



image photo

第99回地球一周クルーズから、石川県白山市で生産された「白山米（ゆめみづほ）」が船内で提供されるお米として採用された。今まで船内で提供されていたお米は、クルーズごとにブランドが変わり、産地もそれぞれだった。しかし、より生産者の顔が見えるものを乗船者に提供したいというジャパングレイスの想いもあり、このたび品評会を経て白山米が採用された。

白山米は、味・香り・粘りともに優れ、特に炊きあがったあともおいしさが続く点が魅力。加賀から能登まで石川県下全域で栽培されているブランド米だ。

一度のクルーズで船に載せるお米の量は約20トン。今回、そのすべてに白山米が採用されたことで、朝食から夜のディナー、洋上居酒屋「波へい」のおにぎりまで、地球の裏側にいながらも、こだわりの白山米がいつでも楽しめるようになる。



地元の新聞でも白山米採用のことが取り上げられた。今度はピースボートが白山米のおいしさを世界中に発信していく番だ。

## 生産者の顔が見えるこだわりのお米を

白山米の採用にあたり、ジャパングレイススタッフは実際に白山の契約農家を訪問。ここでは契約農家の方々と一緒に田植えなども体験した。今回の採用にあたって、生産者の顔が見えること「にこだわったことについて、契約農家の方々は「私たちとしても、普段出荷されたものが、どのような方々が食べてくださっているのかわからない部分

もあったので、それがわかるのが大変うれしいです。そして、日本人だけでなく、一緒に乗船する海外のお客様に食べてもらえるのも非常にありがたい。真心込めて作ったお米が、世界に羽ばたくと思うと感無量です」と話す。

今回採用された白山米の「ゆめみづほ」は、石川県の早生品種の代

れ、父親はコシヒカリの血統を受け継ぐ「越南154号」。両親のよいところを受け継ぎ、炊きあがったあともおいしさが長く続く点は、1000人を乗せるピースボートクルーズにはぴったりだった。

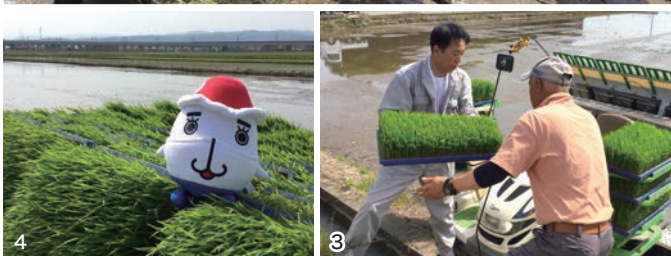


新鮮さを保つため、精米されたばかりの白米を使用。

で作られた自慢の日本酒も、洋上居酒屋「波へい」で取り揃えられる予定だ。

ジャパングレイスの食へのこだわりはお米以外にも。船内で提供される魚はすべて築地市場で仕入れたものを特別な冷凍

## 白山米



1:田植えの様子を実際に見学。長年培われた技術はさすがのひと言。2:ジャパングレイス社員も田植えを体験。3:愛情込めたお米に対する目は真剣そのもの。4:ピースボートのオリジナルキャラクター「シップリン」も様子を見守った。5:オリジナルの横断幕の前で集合写真。

今回の白山米採用に関わったジャパングレイススタッフも「お会いした契約農家の方々は、本当にこだわりのもつて米作りをしている。そんな方々が、白山の伏流水が流れる豊かな環境で作った魅力あるお米です。寄港地観光から帰ってきたあと、夕食でおいしい白山米を食べて、また翌日からの世界一周を楽しんでもらえたら」と話す。さらに今回の採用に伴い、白山米

地球の裏側にいても、日本のおいしいお米を。それぞれの想いが込められた白山米とともに、第99回地球一周クルーズがまもなく出航する。

